

その他にも、紙面へのURLリンクの追加、音声の埋め込み、テキスト情報を読み上げ等の機能も充実している

幸手市立権現堂川小学校の取組

幸手市立権現堂川小学校では、川島正晴校長のもと、タブレット導入による学校の情報化を推進すべく、「権小DX」を実現し、昨年度二月から、毎日すべての学年でタブレットを活用した授業を展開してきました。十月五日(火)に幸手市教育委員会が訪問した際、取組を紹介いたします。

「権小DX」

「DX」の「D」は「Digital」、「X」は「Transformation」(※欧米では「Trance」をXと省略することが多い)を表す、スウェーデンのウメオ大学、エリック・ストルターマン教授が提唱した造語です。「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という意味で使われることが多く、権現堂川小学校ではこれを受け、「デジタル化を強力に推進し、「権小DX」の実現を目指しています。

働き方改革 教科指導

- 「ステップ1」どの教科でも、だれでも一人一台の端末を活用する。
 - 「ステップ2」教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。
 - 「ステップ3」教科の学びをつなぐ。
- ・会議資料はタブレット閲覧を基本とし、印刷を減らす。
・会議を減らし、メールを活用した連絡体制を整える。

情報活用能力の確実な育成

学習指導要領では、情報活用能力を「学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、(中略)基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ

ティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである」と定義しています。権現堂川小学校の児童は「基本的な操作の習得」が十分になされており、一年生でもローマ字入力によるタイピング、アプリケーションを使った協働学習、必要な情報を取り出す活動などが実践されていました。

「聴き合う関係」＝「場」＋「環境」

一人一台端末の導入で気を付けなくてはならないことは、「個別学習」に偏った授業展開に陥らないようにすることです。児童生徒が課題を一人一台端末で行い、それを教師に提出する。教師はそれを受け取り、児童生徒個々にフィードバックする。このような展開だけでなく、学びに広がりや深まりが生まれません。他者と学び合いが実現されません。

この日、権現堂川小学校では、一人一台端末を活用した「協働学習」が多く展開されていました。校外学習で見学するルートの確認、音楽の時間における「Scratch」を活用したリズムづくり等、「個」では達成できない課題を、児童生徒同士が話し合いながら解決していました。

「聴き合う関係」をつくるためには、「場」と「環境」が必要です。写真にありますように、机をペア、トリー等の配置にする教師の仕掛けが、随所に見られました。



幸手市立さかえ小学校の取組

幸手市立さかえ小学校では、中沢朋宏校長のもと、デジタル教科書の利活用や、やむを得ず登校できない児童生徒等へのオンライン授業の実施を早々から推進してきました。十月十八日(月)に幸手市教育委員会が訪問した際の取組を紹介いたします。

デジタル教科書の利活用

デジタル教科書とは、紙の教科書の内容の全部をそのまま記録した電磁的記録である教材です。デジタル教科書とその他のデジタル教材を組み合わせて活用し、児童生徒の学習の充実を図ることが想定されます。

幸手市では、市内小中学校の教科・数教科でデジタル教科書を導入しています。さかえ小学校では、五・六年生に社会科のデジタル教科書を導入しており、授業で利活用を進めています。

訪問日には、五年生の社会科での利活用を参観することができました。まず、児童及び教師は、「Lentrance(レントランス)」という、教科書・教材向けの電子書籍ビューアにアクセスします。先生の声かけで、該当する箇所を拡大したり、関連する画像を見たりして学習を進めていました。

社会科ではグラフや表の読み取りが重要です。紙の教科書では、細部まで読み取りにくかった資料も、デジタル教科書に搭載されている機能を駆使することで、読み取りやすくなります。



ため、多様な児童生徒、多様な学習場面での利活用が期待できます。

やむを得ず登校できない児童生徒等へのオンライン学習

現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、同居家族に発熱等風邪症状がある場合等には、児童生徒の登校を控えるようお願いしているところです。このような、やむを得ず登校できない児童生徒にも、学校との繋がりを絶やさず学びの保障ができるよう、幸手市ではオンライン学習の充実を図っています。

さかえ小学校でも、児童のことを第一に考え、オンライン学習を積極的に実施されています。画面越しではありませんが、教室で授業を受けられなくとも、友達と同じ時間、同じ学びを共有できることは、児童生徒の心理的な側面から見ても非常に効果があります。

また、オンライン学習は、不登校児童生徒等への支援の在り方の一つでもあります。「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく」というGIGAスクール構想の実現に向けて、オンライン学習の更なる推進が求められています。

♡心とからだのアンケート♡の実施

さかえ小学校では、児童の心の様子を把握し、心のケア及び相談活動につながる手立てとして、「心とからだのアンケート」を児童と保護者それぞれに実施しています。いづれに相談したらよいか迷ってしまうことや、助けを求められず一人で悩み、抱え込んでしまうことのないよう、寄り添っていくための一歩です。

今年度はICTを活用することで、周囲の目を気にせず、より相談しやすい環境となり、今後効果的な活用が期待されます。



↑詳しくはコチラ(保護者用) ↑詳しくはコチラ(児童用)